
フードバンク山梨 第18回 定期総会

だれもが食を分かち合える社会のために



日時：2026年5月26日（火）13：30～
会場：山梨フードバンクセンター

2026年度 総会 あいさつ

認定NPO法人 フードバンク山梨

理事長 米山けい子



誰もが安心して暮らせる地域社会の実現に向けて 活動を一步一步進めてまいります

本年度は、長引く物価高騰の影響により、これまでも厳しい生活を余儀なくされてきた母子世帯や生活困窮世帯の皆さんがさらに深刻な生活状況に置かれる一年となりました。食品や日用品、光熱費など、暮らしに欠かせないものの価格が上がり続ける中で、「食費を削るしかない」「子どもに十分な食事を用意できない」といった切実な声が、私たちのもとに数多く寄せられました。

一方で、支援を届ける側にとっても、決して容易な一年ではありませんでした。一般家庭や学校、地域の皆さまに開催していただいているフードドライブにおいても、物価高騰の影響から食品が集まりにくい状況が続きました。支援を必要とする方々の暮らしが厳しさを増すと同時に、活動を支える食品の確保にも影響が生じ「支援を受ける側」と「支援を届ける側」の双方が大きな打撃を受けた一年であったと感じています。

しかし、そのような困難な状況の中にあっても、フードバンク山梨の活動は、多くの皆さまのお力添えにより、前年以上に前へ進めることができました。食品の寄付に加え、ボランティアとして活動に参加してくださった方々、運営費をご寄付くださった個人・企業の皆さま、そして学校や行政など、地域のさまざまな関係者の皆さまに支えられ、私たちは必要とする世帯へ食品を届け続けることができました。

これは、単に食料支援の輪が広がっているというだけではありません。
フードバンク活動を通じて、「困っている人を地域で支えたい」「誰も取り残さない地域をつくりたい」という思いが、少しずつ、そして確かに広がっていることは、私たちにとって何より大きな励みです。支援の現場では、食品を受け取った方からの感謝の言葉だけでなく、「また頑張ろうと思えた」「誰かが気にかけてくれていることが支えになった」という声が届いています。私たちの活動は、食料支援であると同時に、人と人とのつながりを届ける活動でもあります。

2026年度も、生活困窮世帯を取り巻く状況は引き続き厳しいことが予想されます。だからこそ、私たちはこれまで以上に地域の皆さまと連携し、必要な支援を必要な方へ確実に届ける仕組みを強化してまいります。そして、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現に向けて、活動を一步一步進めてまいります。

今後とも、フードバンク山梨の活動に変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



認定NPO法人フードバンク山梨 第18回定期総会 次 第

1.開会の言葉

2.理事長挨拶

3.議長選任

4.書記及び議事録署名人の選出

5.議案審議

第1号議案

2025年度事業活動報告・活動決算報告・監査報告
承認の件

6.報告事項

2026年度事業活動計画及び活動予算 報告の件

7.議長解任

8.閉会

第1号議案 2025年度 事業活動報告・活動決算報告・ 監査報告 承認の件

持続可能な開発目標 (SDGs) に則った活動を推進しました。



* SDGs とは、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、誰も置き去りにしない取り組み。2030年までに持続可能な世界を実現するための17の国際目標。

フードバンクに関係する目標



Ⅰ. 食料支援を通して貧困をなくす活動

(Ⅰ)食のセーフティネット事業

支援数 のべ **6,349** 世帯

支援世帯数は例年並であるが、物価高騰の影響を受けやすい低年金の高齢者や母子世帯が多い。多岐にわたる年代への支援で、送る食品や通信の内容にも配慮を必要とする支援になっている。

①10市町・社会福祉協議会・市役所と連携した支援を実施

南アルプス市・中央市・笛吹市・山梨市・都留市
上野原市・昭和町・市川三郷町・身延町・富士川町

②支援頻度・期間

1ヶ月に2回（第2・4週）

※各市の窓口担当者の判断により支援期間延長あり

③対象世帯

連携する行政・社会福祉協議会の窓口担当者判断により依頼された生活困窮世帯。ひとり親世帯・多子世帯・高齢者世帯・外国籍世帯など。

④支援件数

前年度のべ6047件と比較し、前年比105%であった。期末では、一部の自治体で利用者の見直しがあり、支援数が減少傾向にあった。

⑤利用者の状況

- ・前年と同様、年金だけでは生活が厳しい高齢者世帯や病気や子育てが理由で低所得が続いている世帯
- ・調理が難しく、箱に詰める食品に考慮が必要 等物価高騰の影響、離職、ひとり親、病気・障がいを患う家庭・高齢者の独居・県外からの移住の不安など重層的支援が必要とされる申請世帯が多い。

⑥冷凍食品の宅配

毎月の常温食品に加え、肉や野菜を食卓にお届けしたいとの思いから初めての試みとして、利用世帯へ冷凍食品を宅配した。（6月・7月）

- ・簡単に調理できて良かった
- ・お弁当に彩りが増えた

等様々な喜びの声があった。

①6月20日（金）	120世帯
②7月15日（火）	120世帯



仕分けの様子



箱詰めの様子



食品の内容



宅配した冷凍食品の内容

⑦利用者とのコミュニケーションやつながりをテーマに「ふーちゃん通信」を作成

季節や行事など身近な話題をはじめ、簡単なレシピや職員からのメッセージなどを掲載した。生活の悩み・食品についての問い合わせなどをQRコードから相談フォームで募り、寄せられた連絡に関しては次回の箱の中に返信の手紙を同封してつながりを図った。さらに、QRコードへの入力が難しい世帯に対して、返信ハガキを同封したところ返信率が上がり、支援に関しての声をきくことができた。

～相談フォームからの声～

いつも、ありがとうございます。とても、助かります。店の売上げがなかなか上がらず、まだ、まだ辛抱しなければと思います。これからも、よろしくお願い申し上げます。

⑧季節に合わせた折り紙作品の提供

山梨英和中学・高等学校から季節に合わせた折り紙作品を制作していただき、食品と一緒に利用者へ届けた。「お便りと一緒に季節を感じられる」「いつも折り紙を楽しみにしている」などの喜びの声が多くあった。



食品箱に同封している
「ふーちゃん通信」



英和中学・高等学校YWCA
ひまわり部さんからの折り紙

緊急食料支援

連携している10自治体や当法人と繋がっていない困窮者からの電話で「食べる物が無い」「所持金が数百円しかない」等の緊急の声に対応した独自支援を実施。

行政担当者からの依頼に関しては、地域特性や年齢、生活状況に合わせた食品を提供したり、必要であれば、定期食料支援に繋がたりと連携した支援を実施した。

緊急支援となった支援者の状況

高齢者のケース

就労が困難となり、年金のみでは生活が厳しい状況にある。また、家を強制退去となる話も出る方もいる。金銭管理については、市の支援が入ることによって一定の改善はみられるが、使途不明・財布を落としてしまうなど、家計管理能力の低下が見受けられる。

その他のケース

ひとり親世帯、市外から転居したばかりで未就労、けがにより就労が困難な方などのケースがみられる。市の担当者と相談の上、当法人で対応可能な方については支援に繋がった。

支援数 のべ **147** 世帯



緊急支援の内容

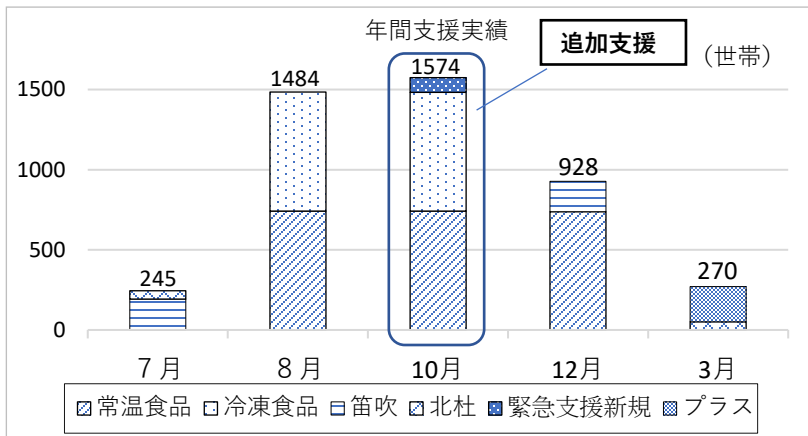
(2)フードバンクこども支援プロジェクト

支援数
のべ **5,318**世帯
(子どものべ**9,492**人)

- ①小中学校と連携した夏休み・冬休み中の子どもの欠食を防止し、健やかな成長をサポートする活動。本年度は連携する4自治体（甲府市、甲州市、丹波山村、道志村）の増加で連携学校数も171校となった。それに伴い、これまで支援が届かなかった世帯への実施が可能となった。
- ②さらに、物価高騰を受け緊急的に支援を実施できたことは「食事の回数や量を減らした」という家庭にとって大きな応援となっている。
- ③今年度より申込方法をオンラインへ移行したことにより、より簡便に申し込みができる環境を整備した。



高校生やスポーツチームのボランティアによる箱詰め作業



宅配する食品や日用品

■対象

子どもの貧困対策連携協定を締結した、南アルプス市・中央市・笛吹市・山梨市・都留市・北杜市・大月市・上野原市・昭和町・身延町・山中湖村・甲州市・甲府市・丹波山村・道志村の15市町村の準要保護世帯（就学援助を受給している生活保護ではない世帯）。学校を通じて当法人の食料支援案内を配布。希望する世帯は直接当法人に申し込み。

■夏の支援内容

- ①例年の常温食品に加えて親子で作るプリンアラモードセットを贈り、夏休みの思い出作りを応援した。
- ②クール便で冷凍食品を初めて発送した。「毎日の学童のお弁当のおかずが困っていたのでからあげが助かりました」「冷凍食品は子どもでも温めて食べれるため私がない時には昼食でいただいています」等喜びの声が多かった。常温食品では補えない、肉や野菜は子どもたちの食卓に彩りを添え、栄養バランスにも貢献した。



夏のプリンアラモードセット



冷凍食品の内容

8月常温・冷凍配送実績（延べ）	
支援世帯数	1,484世帯
18歳以下の子どもの人数	2,866人
母子世帯数割合	全体の77%
連携学校数	171校

■冬の支援内容

通常の食品に加えてクリスマスケーキセットを贈った。物価高騰で大幅に値上がりしたクリスマスケーキを用意できない家族にとって大変喜ばれる企画となった。

12月配送実績	
支援世帯数	737世帯
18歳以下の子どもの人数	1,428人
母子世帯数割合	全体の78%

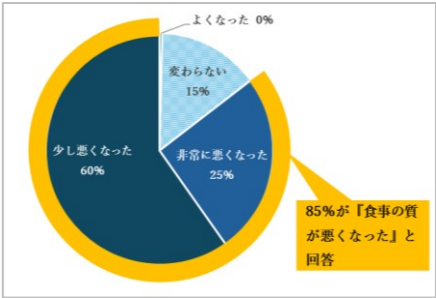


サンタ帽を着用して箱詰め

■こども支援プロジェクトプラス

より重篤な世帯へ食品を届けるため、申し込みを受けた住民税非課税世帯へ追加して食料支援を実施した。

支援世帯数	220世帯
18歳以下の子どもの人数	419人



85%が食事の質（栄養・バランス・量など）について、以前より悪くなったと回答

■物価高騰による緊急支援

夏の支援に実施したアンケート調査で、物価高騰により子育て世帯が深刻な困窮に直面している実態が明らかになった。このことを受け緊急食料支援を実施した。

緊急支援配送実績	
新規申し込み世帯【10月】	92世帯（149人）
緊急支援冷凍食品の宅配【10月】	741世帯（1,433人）
緊急支援常温食品の宅配【10月】	741世帯（1,433人）
進学準備応援緊急支援【2月】	737世帯（1,428人）



2月の支援ではチョコレートを贈った

■その他

- ①笛吹市・北杜市の小中学校に在学中の対象世帯に追加支援を実施した。
 - ・笛吹市子育て世帯食料支援事業【7月・12月】
…383世帯
 - ・北杜市子どもフードサポート事業【7月・3月】
…104世帯
- ②フードバンク山梨の支援を利用している0～3歳の子どもがいる世帯へ「おむつ」「ミルク」のチケットを配布した。…79世帯



配布したおむつ・ミルクのチケット



冬の支援
ケーキセットの感想

送って頂いたケーキの材料のセットで、中3の娘が、ケーキを作ってくれました！バナナと冷凍のベリーミックスを挟みました。彩りや、何の動物を乗せるかで楽しく話しながらほとんど娘が1人で作りました！^おかげでクリスマス当日、家族でケーキを食べる事ができました。味もとても美味しかったです！楽しいひとときをありがとうございました



冬の支援
ケーキセットの感想

ケーキの工夫したところはサンタさんをイチゴに挟んで可愛くしたところですよ！
4年生子供よりケーキの工夫したところはアポロのレアの星形がでたから、サンタさんの隣に置いたところですよ！
5歳の子供より

おけてみたらいっぱいはいってびくびくしましたとてもうれしさをありがとう

今とてもお米が高いので、2袋も入って本当にありがたいです。お米以外にもおいしいものばかり。食べ物が楽しみです。やさしい方達の気持ちがとてもいいとおなかもち満ちます。本当にありがとうございます!!

夏の支援 利用者の声

クリスマス仕様の箱で、たくさんの食品が届きました。大喜びでワクワクしながら開けると目に飛びこんできたお菓子。両手にかかえて中をのぞき込んで娘に涙が出ました。とても良いクリスマスを迎えられそうです。冬休みも安心です。本当にいつもありがとうございます。

冬の支援 利用者の声

ぼくは、中学1年生の男子です!!
いつもフードバンクさんの支援に感謝しています。
このまえのクリスマスケーキづくりで自分からなにかを作ってみよう!!
と思えることが多くなりました。

フードバンクのみなさん!!

ありがとうございました。

進学準備応援緊急支援 利用者の声

いつも、ご支援、ありがとうございます。
お漬物も届けています。子供と、ワクワクしながら、段ボールを開封させています。

今回は、12月12日という事で、子供のお菓子が沢山入っていて、お漬物も届けています。普段はあまりあげられないお菓子なので、大切に頂きたいと思っています。

ありがとうございます。

進学準備応援緊急支援～バレンタイン企画～

(3)つながるスマイルプロジェクト

支援数 のべ **1,083** 世帯

県内15の団体と協働し、より身近で食品を提供することで顔の見える支援を実施。
物価高騰で影響を受けている世帯に加え、留学生や高齢者世帯の申請も多くみられた。

①対象 住民税非課税・児童扶養手当全額受給
給付型奨学金受給のいずれか

②冷凍食品の初めての宅配

「調理が簡単でとても助かる」との声が多数寄せられ、高齢者世帯には手渡しではなく宅配にしたことも好評を得た。

③実施回数 9回

年7回の計画が追加で2回支援することができた。



各拠点での配布の様子



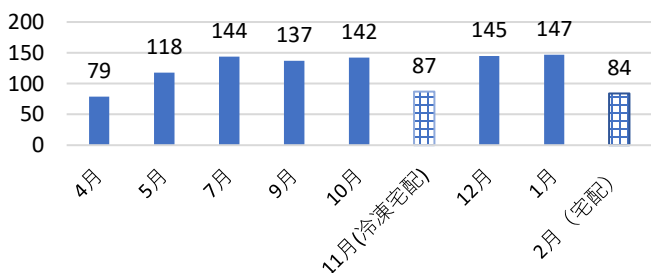
冷凍食品を含む約12kgの食品を配布



拠点担当者が食品を準備している様子

月別支援件数

追加支援



④連携して食料支援を実施した拠点

	団体名	団体別年間支援世帯数
1	NPO法人 こどもサポートやまなし（甲府市）	201
2	社会福祉法人山梨立光生学園 地域総合子ども家庭支援センター・テラ（甲府市）	32
3	NPO法人高齢社会を克服する会 やすらぎの家（甲府市）	57
4	ファミリーホーム「かいふじホーム」 かいふじ子ども食堂（南アルプス市）	98
5	よりそい北杜（北杜市）	27
6	韮崎だんぼらの会（韮崎市）	60
7	社会福祉法人忠恕会 山梨クリナース酒折（甲府市）	60
8	認定NPO法人 富士の緑とフードサポート（富士吉田市）	49
9	NPO法人 ぐんないやー織syokuー（都留市）	0
10	協力団体ふじざくら（富士河口湖町）	120
11	社会福祉法人ぎんが福祉会 ぎんが工房（甲斐市）	19
12	株式会社シャトレーゼ 身延店（身延町）	6
13	更生保護法人 以徳会（甲府市）	33
14	まちの保健室わくわくカフェ（富士川町）	11
15	社会福祉法人ぶどうの里 甲州市地域活動支援センター（甲州市）	139

ソフもお世話になっております。
3月は食品支援が無いためです。
1なので、今回の追加支援は本当に助かります。

段ボール内に満タンにお米をはじめ
沢山送って頂きありがとうございます。
あれだけの量を確保されるのは、
本当に大変な事だと思います。

ありがとうございました。

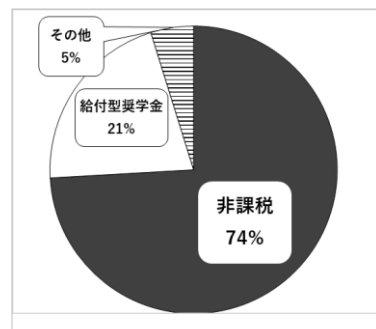
3/27

利用者からの声

(4)高校生への食料支援

支援数のべ **2,067** 世帯

県内46校、90%の高校からの申請があった。母子世帯は74%で、物価高騰の影響が大きい。「お米が買えない」「お弁当のおかずがない」等の声にこえるため、臨時支援を増やし、支援の充実を図った。



対象：74%が非課税世帯からの申請

①高校との連携

2月に県内51校の高校の校長先生宛に申請案内を送付した。メールで生徒に案内する学校や、教員から申請書が送付されるケースもあり、支援が周知されつつある。

②対象

山梨県内に在住し、生活保護を受給していない世帯
住民税非課税世帯、又は高校生等奨学給付金受給世帯

③利用世帯の実態

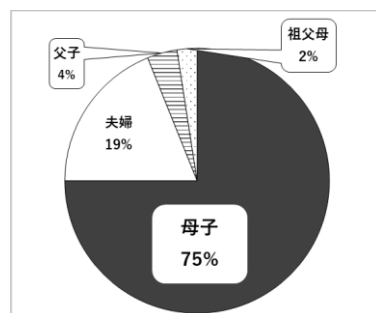
166世帯。在籍高校は、46校に分布し、最多19人が申請する高校がある。支援学校や通信制の利用も一定数ある。
また、県内にサテライトオフィスがある通信制高校在籍者も散見された。

④支援回数

ドライ食品（9回）と冷凍食品（4回）を配送。計画より7回増。

⑤課題

住民税について「所得割非課税、均等割課税」世帯からの申請が数件あった。来年度に対象とするか検討が必要である。



世帯構成：母子家庭の利用が75%

⑥申請時における利用者の生活状況（母子世帯）

・公共料金や電話料金の引き落としの際に口座にお金が入っておらず、支払い間に合わなくなってきました。そこで昼間のパートに仕事の他に深夜バイトをしています、**物価高で全然マイナスが埋まらない状況です。**一番下の次男以外は朝食をとっていません。**学校が休みの日は昼食を全員抜く**ことも多いです。

・パートで週4～5日で働いている。会社の人件費の関係で少し日数を減らされている。食費と日用品、子どもの学用品買うのみ。**家賃と光熱費を支払うだけで生活**している。

・学校に毎日お弁当をもって行かなきゃならないが、**お米がなかなか買えない**ので、お弁当には米を入れ、家で食べるのは、米じゃなく麺類を食べたり、アルファ米を食べている。

・親の介護と実家のことで**働くことが出来ず**にいます。実家の母を看護しながらハローワークに通っています。雇用保険も終了しているので、パート・アルバイトで乗り越えようと頑張っている先をみつけています。



年末発送のドライ食品



1世帯当たりの冷凍食品例

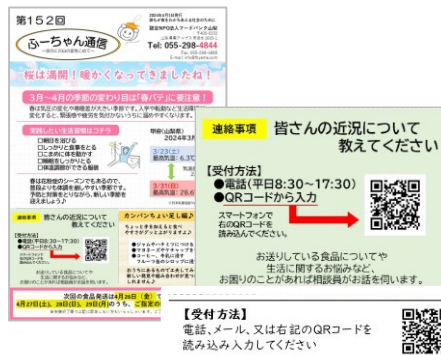
(5)相談支援

フードバンク山梨の食料支援を受けている世帯へ相談・訪問支援を実施

■相談支援、訪問支援の実施

委託事業を受託している県内5市（中央市、山梨市、笛吹市、都留市、上野原市）においては、毎月の食料支援と相談件数を報告。行政と連携した支援を実施した。

また、食のセーフティネット事業やラシクで、返信用ハガキや相談フォームの相談内容によって、必要な世帯への電話相談や訪問支援を実施。



食品と一緒に同封しているおたよりに相談フォームのQRコードを掲載

(6)支援を求める人へのわかりやすい情報発信

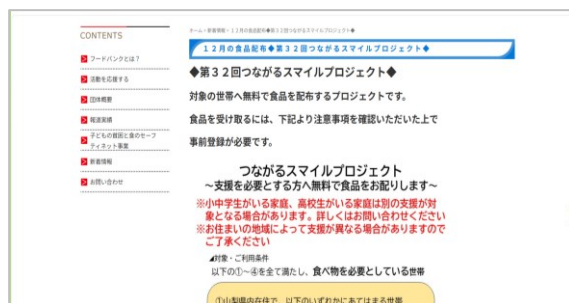
インターネットやSNSを活用しより利便性の良い情報交換を実施

■ホームページの充実

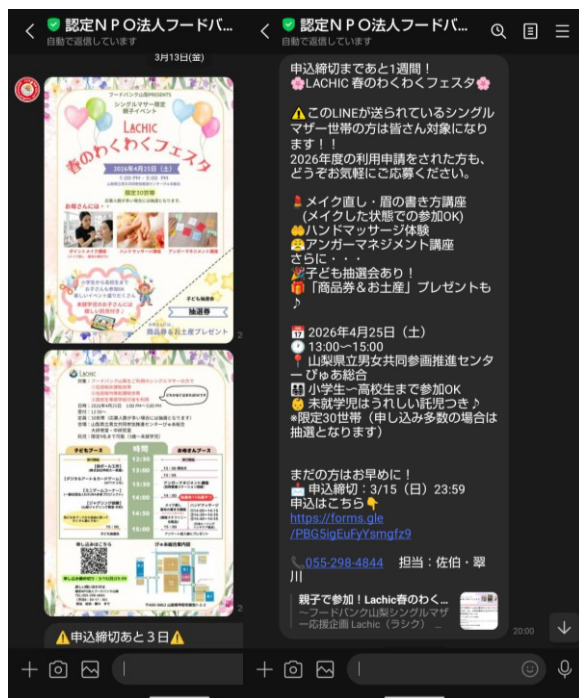
- ①県内フードバンクとの連携による「つながるスマイルプロジェクト」は毎回「新着情報」に掲載し告知した。
- ②ホームページ上に支援を求める人向けのページを開設するには至らなかった。
- ③次年度はホームページをリニューアルする予定となっている。

■LINEを活用した案内や申し込みを実施

- ・「つながるスマイルプロジェクト」告知と申込み
- ・「Lachic」の告知と申込み
- ・「フードバンク子ども支援プロジェクト」は申し込みをウェブ上に切り替え、LINEでの個人のやりとりがスムーズに実施できた。



ホームページで支援の呼びかけ



ラシクのラインによる告知

(7)フードバンク未来アカデミー

①Twinkle Stars Academy

支援数 のべ **138** 名

食料支援を受けている世帯のお子さんに向けたプログラミングと英会話教室。3年目となる2025年度は、過去2年間に参加した子どもたちを対象にさらにステップアップしたLevel2講座を開催した。システム思考やプレゼンテーション能力など、社会で役立つ力を身に着けることができた。

登録人数：16名（小3～中3）／2名（卒業生サポーター）
開催日程：2025年5月～2026年3月 月1回日曜日 全11回
場 所：甲府市協働支援センター
共 催：ヴィジョナリーパワー株式会社
協 力：株式会社スクーミー・バンビユニバーサルこども園
株式会社イングリッシュプラス
昼食協力：株式会社まもかーる

- ①プログラミング教室：教室内外でフィールドワークや実験を行い結果を活かしたアプリの作成やゲーム機の工作、AIアプリGeminiを活用したオリジナルPCゲームの作成などを行った。
- ②英会話教室：文化や習慣などをクイズやゲームで学びながら、ネイティブな発音と会話を習得した
- ③3月の発表会：保護者を招き、各自が英語で自己紹介したり自作のPCゲームを披露したりし、二年間の学びの成果を発表した。

こどもの声（修了式後のアンケートより）

- * プログラミングでもっとこうしようと思うようになった
- * いろんなことを考え課題に向かって解決しようとした！
- * 学校の授業で英語での会話ができるようになった
- * 前より人前で意見を言えたり、スピーチができるようになった
- * 人との関わりが増えて自信がついた
- * 将来の夢、支援学校の先生に生かしたいと思った

保護者の声（修了式後のアンケートより）

- * おいしい昼食と授業内容、子どもから聞く話がとても充実していて楽しい内容だと感じていました
- * 学校の授業でも自信をもって取り組んでいます
- * 発表をみて驚くことばかりだったので、こんなに凄いことをおしえてもらっていると分かりました
- * 大変ありがたい社会勉強を体験させてもらっていると思います
- * 子どもが海外に行ってみたいと話すようになりました



小中学生合同チーム・実験データを入力しながら検証中



中学生の英会話 発音の練習



AI・Geminiを使って
オリジナルゲームを作成



修了式を終えて
講師と一緒に記念撮影

②夏休み見学ツアー

参加人数 **16** 名

食料支援を受けている世帯のお子さんに向けた夏休みの体験教室。夏休み中の子どもたちに向けて、県内の企業の協力を得て、職場体験と普段できない体験を楽しんだ。
異なる学校、学年の子どもたちがともに過ごすことで、新たな仲間の輪が広がった。

参加人数：16名（小・中学生）

開催日：2025年7月29日 8:00~17:00

共催：ヴィジョナリーパワー株式会社

受入協力：山梨県企業局 柚ノ木発電所

株式会社まもかーる

協力：交和会(山梨交通パートナー企業会)

...バスの提供

イツモアー宮店...駐車場の利用

- ①柚ノ木発電所：施設の見学をし、水力発電のしくみや再生可能エネルギーについて学んだ。
またドローンの操縦体験をさせてもらい、施設内で獲れたかぶと虫などをお土産にいただいた
- ②まもかーる：普段入ることのできない調理現場の見学と総菜の真空パック体験を行い、食品の安全と衛生管理について学んだ。



参加者全員そろって出発式



柚ノ木発電所の地下施設を見学

帰りの会での感想

- * ドローンの操縦体験が楽しかった。ゲーム機みたいで案外簡単に操縦ができた
- * かぶとむしやクワガタをゲットできてうれしかった
- * 食品工場では衛生管理が大切だとわかった
- * バスにのっていろんなところに行けて、楽しかった



湖の上のポイントを目指してドローンを操縦

夏休み中の体験を応援！
山梨県企業局 柚ノ木発電所
& まもかーる工場
見学ツアー
2025.7.29 8:00-17:00
参加費 無料
お弁当つき

水力発電所やお弁当工場の中を見学してみよう！
ドローンを飛ばしたり、おかずの真空パック体験も！
水のチカラやエコのひみつを楽しく学べるよ！

見学先：山梨県企業局柚ノ木発電所
株式会社まもかーる（山梨市下石森379-1）
※少しでも体験がすぐれない場合は、ご無理なさらず欠席をお願いいたします。

内 容：水力発電所の見学・再生エネルギー・ドローン体験
お弁当工場見学・体験
お土産：小中学校4年生～中学生まで
定 員：20名（定員に達し次第締め切ります）

【日程】専用マイクロバスが運行します。詳しくは裏面をご覧ください

8:00	フードバンク山梨（南アルプス市橋本1603-1）集合
9:00	いちやまマーケット宮店 集合
9:30	バスで柚ノ木発電所まで
10:00	柚ノ木発電所見学開始
12:00	お弁当工場（まもかーるのお弁当）
13:00	見学終了 バスでまもかーるの工場まで
13:30	まもかーる工場見学・体験開始
14:00	お土産の真空パック体験
15:00	いちやまマーケット宮店別館
16:30	フードバンク山梨別館

詳しくは裏面をご覧ください▷▷

見学ツアー
締め切り 7/14 (月)

フードバンク山梨
山梨フードバンクセンター別館
【集合】9:00 【解散】16:30
山梨県南アルプス市橋本1603-1

いちやまマーケット
いちやまマーケット宮店
【集合】9:00 【解散】15:50
南アルプス市南町1333
※国産の国産産品100%の惣菜メニュー
「イツモアー」宮店、の店

お申し込みはフォーム
またはメールで受け付けます
ご希望のコースを
お伝えください
山梨県南アルプス市橋本1603-1
fryama@genetell.com
TEL 055-258-4848
※定員・参加費・抽選

申し込みはコチラ



総菜の真空パックは
お土産として持ち帰り

③シングルマザー支援Lachic(ラシク)

参加数 のべ **118** 名

物価高騰の長期化で困窮するシングルマザーを支え、決して一人ではないと感じられる社会を作るために定期的な支援イベントを実施。日々、仕事や子育てに追われるシングルマザーへ、自分のための時間を使い、生活や仕事に活かせる学びやコミュニティの場を提供し、心の充実を図った。

■開催期間

25年度は年間を通じて実施
2025年5月～2026年3月 全11回
毎月1回 土曜日または金曜日
10:00～14:00を基本として実施

■対象

フードバンク山梨の支援を受けているシングルマザー
住民税非課税世帯・住民税均等割課税世帯・
高校生等奨学給付金を利用

■人数

定員20名※各回ごとに参加者を募集

■実施内容

●スキルアップ講座

パソコン (Excel・ChatGPT・Canva)
就労支援センター紹介など

●心身ケア講座

アロマオイル、話し方、エイジングケア料理教室など

●親子参加型イベント

クリスマスケーキデコレーション、無料歯科健診

●個別相談会

参加者の現状把握と支援ニーズの確認

■協力企業・団体

- ・旭陽電気株式会社
- ・ジブラルタ生命保険株式会社
- ・訪問看護ステーション信緑
- ・株式会社SASAKI
- ・パルシステム山梨
- ・山梨県立就業支援センター
- ・山梨県歯科医師会・山梨県歯科衛生士会
- ・スピーチスピーチ

参加者の感想

- ・月に一回自分だけの時間が取れてとても助かります
- ・自己肯定感が高まり、前向きな気持ちになれた
- ・子どものことで必死だったが、自分のために使う時間がとれるようになってきた
- ・親子でケーキを作れてよかった
- ・更年期を乗り越えられた先輩のお話は大変参考になりました



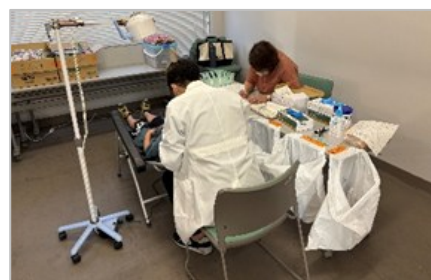
5月叱り方講座



6月「幸せを考える」講座



11月ケーキデコレーション作り



2月歯科健診

2. 食品ロス削減と食品管理

昨今の物価高騰は社会全体に大きな影響を及ぼしている。各プロジェクトにおいても、支援を必要とする世帯が増加する一方、食品の寄贈量が減少するなど活動継続に影を落とし始めている。

このような現状の中、食品収集が非常に厳しい状況であったが、全国フードバンク推進協議会とのマッチングをはじめ、多くの食品の受け入れに努めた。

フードドライブでは、夏・冬の強化月間に合わせ企業や学校へ向け、概要やチラシを発送し丁寧な対応に努めた。加えて新たな取り組みとして開始した、フードバンクセット販売の周知など、食品収集への最善を尽くした。

お米は、政府備蓄米交付の申請をおこない、約100トンの提供を受けた。

これにより、お米を中心とした支援も実現し、個人支援ではプロジェクト別に、年間支援計画以上の支援を実現した。

また、県内フードバンク団体を中心とした提供が充実した。



食品入荷時の様子



大型10トン車での寄贈受け入れ

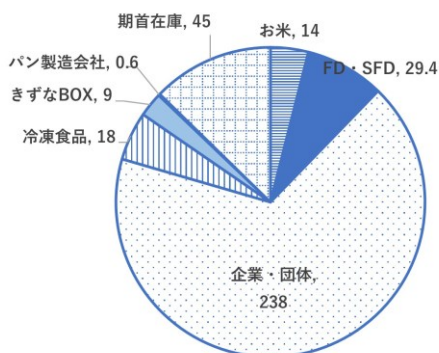
① 年間取扱量

年間取扱量目標400トンを目指し、本年度は昨年度期首在庫45トンを加え、食品取扱量は354トン(前年比115%)となった。

次期繰り越し量は71トンとなった。

企業・団体、一般市民の方々、スクールフードドライブからの受け入れや、冷凍食品の寄贈等、多くのご協力があった。

年間取扱量354トン

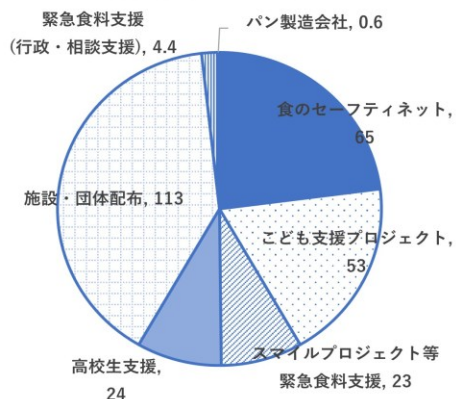


② 年間提供量

各支援の利用者が増加する中、お米を中心に様々な年齢層の世帯へ支援を実施した。

支援別では年間計画の実施回数を増やすことで個人世帯への支援を充実させること緒ができた。また、食品受け入れ状況と連動しながら円滑に食品提供を行うことができた。

年間提供量283トン



(1)フードドライブの拡充

フードドライブ年間取扱量 **43.4** トン

センターでの常時受付と強化月間の実施

① 夏の企画

夏のスタートイベントとして、フードバンクセット販売の参画企業とともに記者発表を行いフードドライブの参加を呼び掛けた。

「フードバンクセット」は、県内スーパーや生協で販売し、消費者の方が購入して下さることにより、一部寄付金と食品が寄付される仕組みとなっている。



強化月間開始・記者発表

② 冬の企画

冬のスタートイベントでは、食品を積み重ねたクリスマスツリーを作成し、メディアを通した広報を実施し多くの寄付を呼び掛けた。



寄付呼びかけのフードツリー

③ スクールフードドライブ

PTAや生徒が主体となって行うスクールフードドライブでは、年間を通し48校・園の参加があり、延べ71回の食品寄贈があった。



スクールフードドライブの寄贈

④ 企業・団体内フードドライブ

企業・団体からのフードドライブ受け入れは主に夏・冬の強化月間後となり、多くの企業団体から食品が集まった。持ち込みをおこなってくださった企業担当者との話の中では、物価高騰により、例年より食品の収集が難しくなったとの声もあった。



企業フードドライブの寄贈

⑤ 行政・社協と連携したフードドライブ

冬のフードドライブ強化月間では、引き続き各市町村の行政機関が拠点となりフードドライブを実施した。(12拠点)

⑥ フードドライブ集荷拠点

【市役所・社協：12拠点】

◆中央市社会福祉協議会◆南アルプス市社会福祉協議会
◆笛吹市役所生活援護課◆山梨市社会福祉協議会
◆都留市社会福祉協議会◆上野原市社会福祉協議会
◆大月市社会福祉協議会◆昭和町社会福祉協議会
◆市川三郷町社会福祉協議会◆富士川町社会福祉協議会
◆身延町社会福祉協議会◆富士河口湖町社会福祉協議会

【スクールフードドライブ：48校・園】

●山梨県立白根高等学校●駿台甲府高等学校●山梨学院高等学校●山梨県立山梨高等学校
●甲府市立甲府商業高等学校●山梨県立都留興譲館高等学校●山梨県立甲府東高等学校●身延高等学校
●山梨県立日川高等学校●山梨県立韮崎高等学校●山梨県立身延高等学校●山梨県立青洲高等学校
●山梨県立甲府南高等学校●山梨県立韮崎工業高等学校●山梨県立甲府城西高等学校
●山梨県立巨摩高等学校●富士学苑高等学校●山梨県立笛吹高等学校●山梨県立中央高等学校
●山梨県立甲府第一高等学校●山梨県立塩山高等学校●山梨県立農林高等学校●山梨県立北杜高等学校
●山梨県立盲学校●山梨県立かえで支援学校●山梨大学付属教育学部特別支援学校●山梨県立ろう学校
●わかば支援学校●あけぼの支援学校●山梨県立甲府支援学校●山梨県立高等支援学校桃花台学園
●山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園●甲府市立甲府商科専門学校●山梨英和大学
●山梨英和中学校・高等学校●北杜市立甲陵中学校・高等学校
●南アルプス市立白根御勅使中学校●富士川町立富士川中学校●甲斐市立竜王中学校●中央市立玉穂中学校
●南アルプス子どもの村小中学校●南アルプス市立八田小学校●富士川町立増穂小学校●風の子保育園
●パンビユニバーサルこども園●韮崎カトリック白百合幼稚園
●ニューライフインターナショナルスクール甲府●山梨英和大学 ボランティアサークルThe Peace Fellows



フードドライブで集まった物品

(2) 全国フードバンク推進協議会との連携強化

全国フードバンク推進協議会とのマッチングにより、多くの食品提供を受けた。当法人センターの収納スペースの広さや、柔軟な受け入れを共有し、関東圏の寄贈案内では当法人限定でお声がけいただく案内もあった。
今後も、全国フードバンク推進協議会との連携を深め積極的に物品の受け入れをおこなう。
(25年度マッチング数：48件)



協議会経由での大口寄贈の受入れ

(3) 新規食品企業の開拓

①県内外の企業へアプローチを強化

新規食品企業への周知や、寄贈を募るため「食品寄贈とCSR連携推進フォーラム」を開催した。
実際にご寄贈をいただいている食品製造企業からのお話や、当法人から食品の提供を受ける福祉施設での食品の活用方法の共有等、参加者にとって良い機会となった。また、スクールフードドライブ参加校の表彰も実施した。
フォーラムを通じ、関心を持っていただいた企業との連携の形を引き続き、検討していく。



フォーラム開催時の様子

- 日時：2025年9月18日(木)
- 場所：山梨県立図書館
- 参加者：企業・団体関係者51名(35社・団体)
県内高校3校、県内フードバンク団体担当者(6団体)

② 倉庫型スーパーとの連携

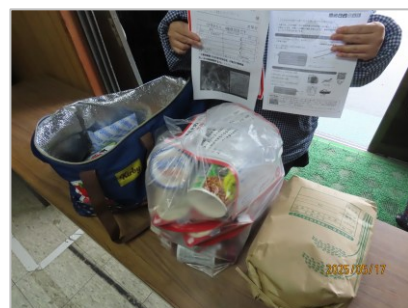
2025年1月より、倉庫型スーパーとの連携が開始した。店舗での引き取りは登録施設の内3施設で実施。

③ フードバンクセットの実施

15店舗で実施、911キロの食品の寄贈を受けた。



店舗に並んでいるフードバンクセット



県内フードバンクでの備蓄米配布の様子

(4)政府備蓄米の効率的な配布と保管

農林水産省よりフードバンク団体へ向けた備蓄米の交付があり、当法人は約100トンを受けた。提供先は、自団体・県内フードバンク、登録施設内の子ども食堂、パントリー団体向けに実施した。

さらなるお米取扱い保管の実現に向け、26年度には米作業倉庫を建設予定である。

(5)食品管理の効率化

① 先進企業視察・改善計画の策定

フォーラムを通じてつながった企業様の視察を実施した。倉庫内のレイアウトをはじめ、特に冷凍・冷蔵品の衛生管理については今後検討していく。

② IT化の実現と効率的な運営体制の構築

今年度のIT化(システム導入等)は検討段階だったが、26年度において倉庫管理システムを導入し運用する。



視察の様子

(6)施設・団体への配布促進

今年度は施設・団体向けの食品一斉配布は年一回となったが、年間を通し、各施設・団体から多くの食品提供希望があり、ニーズや支援世帯数に合わせ食品提供を実施した。

■施設・団体向け一斉配布の実施(年1回実施)

確約書締結施設・団体に対し、大口寄贈のあった食品を、電話、メール等でのニーズ調査を行い、希望する施設・団体へ配布をおこなった。
今年度は常温食品に合わせ、冷凍食品の配布も同時におこなった。

■施設・団体からの要望に対応

毎月パントリーや子ども食堂を実施している団体からは、各月連絡を受け提供可能な常温・冷凍食品や日用品を提供した。
米の提供希望があった場合は、該当する団体へは政府備蓄米を、通常対応の施設へは寄贈されたお米の提供をおこない、米での支援は在庫管理のバランスをとって提供した。



食品提供時の様子



施設団体への一斉配布の様子

(7)冷凍・冷蔵食品の取り扱い

年間寄贈量 **20** トン

全国フードバンク推進協議会経由の大口の寄贈もあり、物価高騰の長期化で苦しい生活の世帯からは、大好評の声をいただいた。特に子育て世帯では、不足しがちなたんぱく源や野菜などの補充につながり、子ども達の健康や成長に貢献できた。

①県内冷凍食品会社5社からの寄贈

冷凍食品880.5kg、冷蔵食品354kgの寄贈があった。

- ・冷凍食品
焼きそば、おやき、マンゴーフィリング、ラムレーズン、イカから揚げ、氷菓
- ・冷蔵食品
トマトピューレ



県内企業からの寄贈（焼きそば）

②全国フードバンク推進協議会経由の寄贈

- ・1トンを超える大口寄贈が4回あった
- ・食品種類：鶏肉加工品、中華まん、いもまん、鶏肝
- ・冷凍トラックを一時的に保管倉庫として活用
- ・見送り案件：年末の冷凍おせちセット



川崎港引取り食品例

③フードバンクかながわとの連携継続

- ・年間6回、延べ7,706kgを川崎港の企業倉庫で引き取った
- ・秋以降は、寄贈予定量が少なく中止が多かった

④冷凍食品の効率的配布

個人支援

- ・フードバンクこども支援プロジェクト

8/29、配送741世帯

- ・食のセーフティネット事業

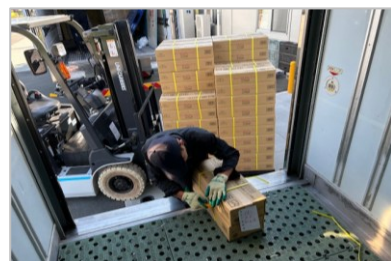
7/19、配送112世帯、手渡し8世帯

- ・高校生支援

4回配送、延べ635世帯

登録施設団体

- ・冷凍庫（冷凍室）の容量等を事前に確認し、適量を配布した



全国フードバンク推進協議会経由、大口寄贈食品の搬入

⑤利用者の声（母子家庭）

冷凍品も子供達に大好評です。チキンはお弁当に大活躍していますし、娘が中学校から帰ってきてよく食べています。

1人で子供達3人を育てるのは、やる事も多いしお金もかかるし、心が折れそうになる事もありますが、フードバンクさんの荷物が届くたびにいつも暖かさを感じ、支援してくれる方々がいるんだと、元気に前向きにさせてくれます。

仕事から帰ってきたら大量の冷凍食品が冷凍庫に…！たんぱく質が沢山…！感動して、本当にありがたく、取り急ぎ感謝をお伝えしたくてこちらからすみません！

私が外で働き始め、高校お弁当もあり、また在宅で気力のない子もおり、冷凍食品、本当に本当にありがたいです。

ほんとうにありがとうございます！！



クール宅急便で発送した冷凍食品

3. 寄付活動・広報

(1)活動への寄付の呼びかけ(個人・企業・遺贈)

物価高騰の影響により、日々の食生活や子どもたちの教育や将来への見通しに不安を抱える世帯が増加している。その実情を広く知っていただき、支援の輪を広げることを目的として寄付活動を推進した。その結果、多くの方々から賛同を得ることができ、寄付の拡大や継続的な支援へのつながりという形で、一定の成果を上げることができた。

①個人からの寄付

- ・ 広報、ホームページ、ダイレクトメール及を通じて、当法人の活動への理解促進を図るとともに、継続的に寄付の呼びかけを実施した。
- ・ 寄付者に対するダイレクトメールの送付を4月、11月の年2回実施し、アンケート調査結果を送付することで、事業への理解促進と継続的な支援の依頼を行った。
- ・ ダイレクトメールへの振替用紙の同封や、寄付チラシへのQRコード掲載を行い、寄付者の利便性向上に努めた。
- ・ クレジットカード決済並びにGive One及びREADYFORの継続寄付サイトを活用し、多様な寄付手段を行った。

②法人からの寄付

- ・ 7月、8月及び10月に、県内企業に対して集中的に案内文を送付し、新たな特別法人会員の依頼を実施した。
- ・ その結果、8企業・団体が新たに特別法人会員として登録した。
- ・ 既存の特別法人会員に対しては、代表者宛てに直接訪問し、継続的な支援に対する謝意を伝えるとともに、活動報告及び継続支援の依頼を行った。

③遺贈寄付

- ・ 遺贈寄付に関するチラシ及びパンフレットを作成した。
- ・ 作成したチラシについては、日経エージェンシー主催の「日経 相続・事業承継フェア」において配布。その結果、6件の問い合わせがあった。
- ・ 問い合わせのあった先に対してパンフレットを送付した
- ・ 既存の寄付者より、遺贈による寄付を受けた。



春のチラシ



クリスマスのチラシ



遺贈チラシ

協賛企業・団体一覧

※2025年4月～2026年4月(順不同)

小林製薬株式会社 東京エレクトロン テクノロジーソリューションズ株式会社 宗教法人 生長の家
オギノ食糧株式会社 ツルヤ化成工業株式会社 株式会社ネオシステム 株式会社はくばく
株式会社和田電業社 金精軒製菓株式会社 株式会社タンザワ 旭陽電気株式会社
生活協同組合ユーコープ 株式会社飯塚工業 医療法人優心会 竜王レディースクリニック
株式会社シンク 株式会社福島運輸 株式会社OZK 株式会社内藤製作所 株式会社エム・シー・エス
株式会社シャトレゼ 株式会社テレビ山梨 株式会社光・彩 有限会社峡西シーエーテーブイ
ヒロセ電気株式会社 株式会社サンポー 株式会社エノモト 株式会社オーク
株式会社オーテックメカニカル 株式会社フォネット 株式会社藤石材 小澤こころのクリニック
有限会社クヌギ螺子製作所 コミヤマエレクトロン株式会社 株式会社Toshin 株式会社尾澤工業
なかえこどもクリニック オプトホーム株式会社 有限会社ペリー商事 有限会社保泉商事
共信冷熱株式会社 一般社団法人山梨県損害保険代理業協会 清水内科クリニック
一般社団法人山梨県測量設計業協会 パルシステム共済生活協同組合連合会
パルシステム生活協同組合連合会 医療法人快療会くつま整形外科医院
医療法人久悠会津久井胃腸科医院 医療法人田辺産婦人科 医療法人碧山会甲府昭和婦人クリニック
医療法人立史会今井整形外科医院 株式会社 M's gift 株式会社 F U J I S E Y 株式会社Futur
株式会社 S T O R Y 株式会社エヌディエス 株式会社オギノ 株式会社クスリのサンロード
株式会社ササキ 株式会社サニカ 株式会社サンワライフ保険 株式会社システムインナカゴミ
株式会社トリケミカル研究所 株式会社ハーモテック 株式会社パルライン 株式会社メイコー
株式会社甲府大一実業 株式会社坂本建運 株式会社山梨中央銀行 株式会社小澤工務店
山梨スズキ販売株式会社 山梨ダイハツ販売株式会社 山梨日野自動車株式会社
住友林業株式会社住宅事業本部甲府支店 昭和総合警備保障株式会社 浄土真宗本願寺派大正寺
生活協同組合パルシステム山梨 長野 生活協同組合ユーコープ やまなし県本部 長田組土木株式会社
土屋眼科医院 富岳通運株式会社 富士急行株式会社 富士冷暖株式会社
有限会社ジーエヌコーポレーション 有限会社東設備 有限会社総合電化小林 株式会社クロスフォー
株式会社新和運輸 ヤマリン有限会社 有限会社塚原製作所
ヴィジョナリーパワー株式会社 株式会社タカギ 夢玄 医療法人 大塚内科小児科医院 JAM甲信
G.Iホールディングス株式会社 hazime.net合同会社 株式会社大奉農舎 バーニソン合同会社
お百度参る 公益財団法人山日YBS厚生文化事業団 やまなし県民政策ネットワーク
株式会社エス・アイ・エンジニアリング 株式会社サンテレコム 株式会社幸栄企画 株式会社大南設備
株式会社田丸 武田信組「風月会」 武藤株式会社 ダイードロリンコ株式会社

計109社・団体

皆様のご支援心より感謝申し上げます

(2)広報活動による認知度向上・メディア SNS、HP の充実

フードバンクの認知拡大と支援者・協力者の獲得に向け、プレスリリース・HP・SNSによる広報を継続的に実施。2025年度は年間9本のリリースを発信し、社会的認知の向上につながった。今後も、支援者・協力企業・ボランティアの拡大に加え、支援を必要とする方が適切な支援につながるよう情報発信を強化し、「フードバンクとぼく」を活用した啓発活動も進めていく。



山梨県との連携協定

■25年度 主な取り組み

- ・プレスリリース：年間9本を発信（詳細は下表）
- ・SNS：活動報告・イベント告知・広報内容を適宜発信
- ・HP：リニューアル着手（25年度中に開始、26年6月中に公開予定）
- ・甲州市・丹波山村・山梨県・道志村とこどもの貧困対策に関する連携協定を締結した



9/18 フォーラムの様子

25年度 プレスリリース一覧（全9本）

月	プレスリリース タイトル・内容
4月	フードバンクセット×フードドライブ強化月間始動（全国初の取り組み）
7月	夏の食品寄付が昨年比約50%減。支援を必要とする家庭は約2倍に
7月	「ナツボラ」始動！高校生が支える夏休みの子ども支援プロジェクト
8月	食品寄贈とCSR連携推進フォーラム開催（9/18）
10月	子育て世帯の危機的状況をアンケートで公開・緊急食料支援申し込み開始
11月	サンタWEEK開催（12/15～22）取材のご案内
1月	バレンタイン企画「そのチョコレート、必要な方に贈ってみませんか」
2月	大学生向け食料支援アンケート結果報告（81%が食費不足と回答）
3月	年度末・春休みの食費増加に備えた緊急食料支援を実施（約500世帯）

実施内容

①フードバンク啓蒙活動

25年度に高校へ声掛けを実施。講演会の実施には至らなかったが複数の高校から前向きな反応を得て、2026年度の実施が決定した。

②HP・SNS・プレスリリース

年間9本のプレスリリースを発信。SNSでは活動報告・広報内容を適宜アップし認知拡大につなげた。HPリニューアルは25年度中に着手し2026年6月中に公開予定。

テレビ放送

日時	放送局	内容
4/07	UTYテレビ山梨	フードバンク山梨が市と連携協定 支援が必要な家庭を速やかに把握し支援に素早くつなぐ 山梨・甲州市
4/16	NHK甲府	山梨 丹波山村 フードバンクと子どもの貧困対策で連携協定
4/30	UTYテレビ山梨	食品がないことには支援できない」物価高騰でフードバンク山梨が危機的状況 スーパーなどと連携し新たな取り組みへ
4/30	NHK甲府	「フードバンク山梨」購入された食料を支援につなげる取り組み
4/30	YBS山梨放送	全国初「フードバンクセット」を販売 食料品確保へ売り上げの5%寄付 山梨
5/2	峡西CATV	全国初 食糧支援への架け橋となる「フードバンクセット」販売
5/13	NHK首都圏	山梨 食料品セット購入でフードバンクに寄付 困窮世帯支援へ
6/2	NHK甲府	子どもの貧困防止へ 山梨県とフードバンクが協定
6/2	UTYテレビ山梨	「どの地域に暮らしていても同じ支援」目指す 生活困窮世帯などへの食料支援 山梨県とフードバンク山梨が連携協定
6/2	YBS山梨放送	「コメ高騰に危機感」県とフードバンクが連携協定 夏休みの子どもの食料支援へ 山梨
6/16	NNS	買い物ついでに社会貢献（自主制作番組「あなたとつながるジモラブ」のピックアップコーナーでスマイルセットを紹介）
8/1	YBS山梨放送	高校生が「ナツボラ」＝夏休みのボランティア活動 食料支援へ 約50人が箱詰め作業
8/12	YBS山梨放送	普段より“お菓子が多め” 夏休みの子どもの食料支援 ボランティアが箱詰め作業 山梨
8/26	NHK甲府	山梨県 子育て支援の充実へ 県議会議員と民間団体が意見交換
9/9	UTYテレビ山梨	山梨QBとNTT東日本が初の共同支援 ミニバス大会参加チームから集めた食品 フードバンク山梨へ寄贈
9/19	NHK甲府	山梨 フードバンクが企業と連携へ 物価高で食品の寄贈減少
9/18	YBS山梨放送	食品の寄付 去年より約30%減少 物価高騰の影響が深刻化 一方で支援待つ家庭は大幅増 山梨
9/18	UTY テレビ山梨	生活困窮世帯に食品を届けるフードバンク 支援世帯はコロナ禍前の3.1倍 一方、寄付食料は24%減少 物価高騰の影響
10/08	NHK甲府	フードバンクのNPO法人 新規利用世帯の受け付け開始 山梨
12/1	UTYテレビ山梨	「おいしいものを食べて楽しいクリスマスと正月を」コメなど食品約200キロ NTT東日本がフードバンクに寄付 一方、物価高騰で寄付は前年より37.5%減
12/4	YBS山梨放送	「物価高騰の影響が…」年末年始前に寄付が減少 食品は去年より3トン減 フードバンク山梨
12/5	UTYテレビ山梨	トヨタ関連会社でつくる2団体がフードバンク山梨に5000個の菓子などの食料品を寄付
12/8	NNS	ジモラブ街かどニュース
12/16	NHK甲府	フードバンク山梨 クリスマスにあわせサンタ姿で食料支援
12/17	UTYテレビ山梨	冬休み中の子育て家庭にプレゼントを サンタ姿で食料の箱詰め 今年は寄付が4割減少 南アルプス市・フードバンク山梨
2/13	NHK甲府	山梨 食料無償提供のNPO バレンタインデーのチョコも支援
3/9	UTYテレビ山梨	食べ物が十分に買えない大学生が約8割 3人に1人は毎日1食抜くと回答 食料支援の学生を調査 フードバンク山梨
3/9	YBS山梨放送	「食べ物が十分に買えない」8割の大学生が回答 物価高が直撃 フードバンク山梨が調査 山梨
3/17	NHK甲府	都留文科大学生の約8割 “お金足りず食べ物十分に買えない”
3/24	NHK甲府	春休みにあわせ緊急の食料支援 生活困窮世帯に 南アルプス
3/24	UTYテレビ山梨	フードバンク山梨が約500世帯に送る食料15品目の箱詰め作業 春休み期間中の食料支援は今回初
3/24	YBS山梨放送	初の春休み支援 子育て世帯に食糧支援始まる
3/27	NHK首都圏	フードバンクの信頼性高め寄付促進 国の認証制度が4月開始

新聞掲載

日時	新聞名	掲載内容・掲載タイトル
4/16	山梨日日新聞	子どもの貧困対策での協定 甲州市と市教委、フードバンク
5/1	山梨日日新聞	フードバンク寄付24%減 県内NPO 支援セット販売へ
5/1	産経新聞	店頭で食料品セット購入、フードバンクに寄付し提供 国内初の仕組みが山梨県で開始
5/1	山梨日日新聞	子ども貧困対策 3者が協定締結 丹波山
5/2	読売新聞	フードバンク買い物で支援 4者と連携
5/2	朝日新聞	食品セット直接寄付募るフードバンク山梨在庫減に対処、全国初
5/8	毎日新聞	子どもの貧困で連携 丹波山村
5/13	富士山経済新聞	いちやまマートで"フードロス削減"と"子ども支援"をつなぐ「フードバンクセット」販売開始
6/2	産経新聞	生活困窮家庭への食糧支援で連携 山梨県とフードバンク山梨「全国で前例なし」
6/3	山梨日日新聞	子どもの貧困対策、県とフードバンク連携
6/3	朝日新聞	山梨県とフードバンク山梨、こどもの貧困対策で連携協定
6/6	山梨日日新聞	子どもの貧困対策へ3者が連携協定締結 (道志)
6/19	山梨日日新聞	労基から募った食品や菓子寄付 連合山梨、フードバンクに
6/20	山梨日日新聞	フードバンク山梨に家庭の余剰食品贈る 山教組女性部
7/3	山梨日日新聞	事業報告など証人 山梨交通交和会が総会
7/8	山梨日日新聞	フードバンクに回収食品を寄付 甲府商科専門学校
7/16	朝日新聞	フードバンクから見える貧困 食生活は支援頼みの家庭も
7/16	山梨日日新聞	フードバンクに集めた食品寄贈 中央市職員互助会
7/17	山梨日日新聞	持ち寄った食料フードバンクに 昭和総合警備保障
7/22	山梨日日新聞	会員から募った食料フードバンクへ寄付 県弁護士会
7/24	山梨日日新聞	夏休み迎えピンチ フードバンクが協力呼びかけ
7/24	山梨日日新聞	従業員などから募った米や菓子など贈る エム・シー・エス
8/2	山梨日日新聞	子育て世帯に食料支援 高校生有志ら箱詰め
8/2	朝日新聞	子どもたちへ食料をフードバンク高校生ら箱詰めボランティア
8/2	読売新聞	フードバンク山梨で高校生ら箱詰め作業「ナツボラ」
9/10	読売新聞	選手ら食料品集め寄付「フードドライブ」ミニバス大会で
9/19	山梨日日新聞	フードバンクと企業が連携 取組み発表
9/19	山梨日日新聞	フードバンクに食料品など寄贈 NTTなど（NTTと
9/26	毎日新聞	企業に食品寄贈呼びかけ 連携強化へフォーラム
9/30	山梨日日新聞	フードバンクに回収食品を寄贈 ユーコープやまなし
10/2	山梨日日新聞	フードバンクに助成棋院、食料寄贈 富国生命
10/7	山梨日日新聞	食料支援利用世帯 食事回数減「ある」51%
10/29	山梨日日新聞	食品寄付ツリーでPR
10/30	山梨日日新聞	家庭の余剰食品集め寄付 南アで県教育会
11/13	郵便新報	郵便局の「フードドライブ」
11/26	山梨日日新聞	フードバンクに食料品167キロ贈る 損保ジャパン山梨支店など
12/7	山梨日日新聞	フードバンクに食料品226キロ寄贈 トヨタ系社員
12/8	山梨日日新聞	フードバンクに募った食品寄贈 NTT東日本支店など
12/16	山梨日日新聞	冬休み中の食品届け フードバンクが箱詰め
12/17	山梨日日新聞	冬休みの子どもに食料を 昭和総合警備保障が寄贈
1/21	山梨日日新聞	フードバンクに水と食料品贈る 早野組
1/31	山梨日日新聞	フードバンク山梨がチョコ募集 子育て世帯に「愛」届けて
2/7	読売新聞	子どもたちにチョコを フードバンク山梨 寄付募る
3/3	山梨日日新聞	物価高 続く困窮、細る寄付
3/10	山梨日日新聞	学生困窮 食費切り詰め
3/10	読売新聞	「食料十分買えない」8割 都留文大生 物価高の影響大きく
3/25	山梨日日新聞	春休みの子へ食料支援 フードバンク 物価高続きで初

(3)物価高騰に伴うアンケート調査

回答数 のべ **513** 世帯

夏の子育て世帯への支援で「物価高騰に関するアンケート」調査を実施。回答者の78%がひとり親世帯。半数以上が「食事を減らした経験あり」、85%が「食事の質が悪化した」と回答。子どもの体験・学習機会の不足も深刻な実態が明らかになった。

■調査概要

- ①調査対象
905世帯
- ②調査方法と回収状況
食品宅配箱にチラシを同封、Googleフォームで回答
- ③調査期間
2025年8月2日～2025年9月7日
- ④回収状況
調査世帯数 905（うち非課税473世帯 52%）
回収数 513（うち非課税275世帯 54%）
回収率 57%

■アンケート調査結果まとめ（抜粋）

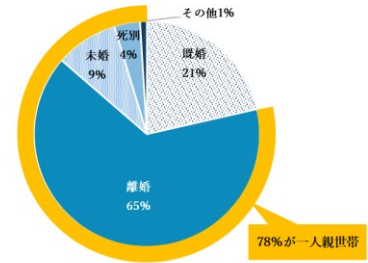
①生活の切り詰めが進む世帯

『価格の上昇によって、日常生活にどのような影響が出ているか』では、「安い食品に切り替えた」が最多（361件）。次いで「食品の購入を控えた」（265件）食事の回数・量を減らすなど生活の切り詰めが常態化し、子どもの食と親の健康が危機にさらされている実態を示している。

②生活費不足とその対応

『生活費が足りなくなった時、どうしていますか』では「物を売る」（116件）、「家族・友人から借りる」（75件）、「キャッシング」など多様な対応策が見られた。これらは一時的な対応に留まり、貯金や資産を失い、借金を抱えるリスクを高める負のスパイラルに陥っている状況であり、早急な支援が必要であることがわかる。

あなたの現在の結婚状況をお選びください



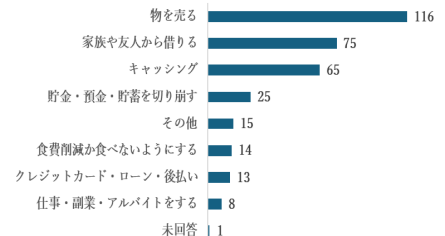
ひとり親世帯78%

価格の上昇によって、日常生活にどのような影響が出ていますか（複数回答）



①生活の切り詰めが進む世帯

生活費が足りなくなった時、どうしていますか（複数回答）



②生活費不足とその対応

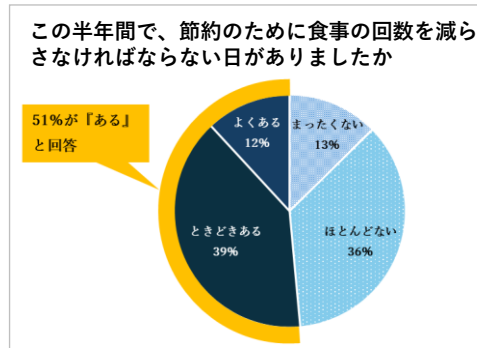
・今回初めて支援を受けました。箱いっぱいに詰めてある食材を目のあたりにした時、涙が溢れました。心のこもった支援に励まされ、感謝の気持ちとともに、必ずいつか恩返しをしたいと思います。

・届いた段ボールを開けた瞬間、子どもたちが目を輝かせて喜んでる姿を見て涙が出そうになりました。いつも子どもたちには負担をかけないように頑張ってきましたが、我慢をさせてしまっていたおとに気付かされました。

アンケートで寄せられた声

③食事量・質の低下

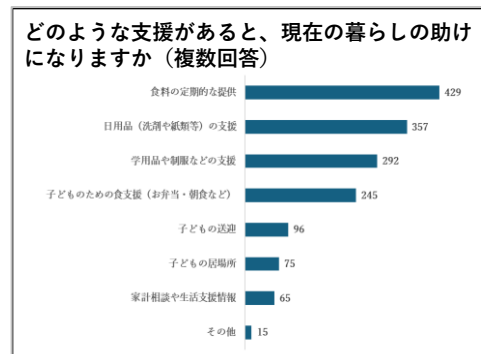
『この半年間で、節約のために食事の回数を減らさなければならない日がありましたか』では約半数が「食事を減らした経験あり」。85%が「食事の質（栄養・バランス・量）が悪化した」と回答。量・質の両面で親子の健康が危機にあることが示されている。



③食事量・質の低下

④支援ニーズの高まり

『どのような支援があると、現在の暮らしの助けになりますか』では「食料の定期的な提供」（429件）が最多。日用品支援（357件）・学用品支援（292件）・子どもの食支援（245件）など複合的なニーズが高まっていることが分かる。

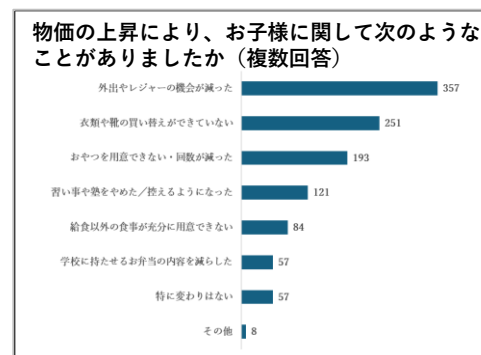


④支援ニーズの高まり

⑤子どもへの影響

『物価の上昇に寄り、お子様に関して次のようなことがありましたか』では選択式であり、「外出・レジャーの機会が減った」（357件）「衣類や靴の買い替えができない」（251件）が最多。

『この1年間で、お子様の健康や体調について気になる変化はありましたか』では、「特に変わらない」（359件）と多数だが「元気がない・疲れやすい」（81件）、「風邪を引きやすい・体重が減った」など健康リスクも浮き彫りになった。

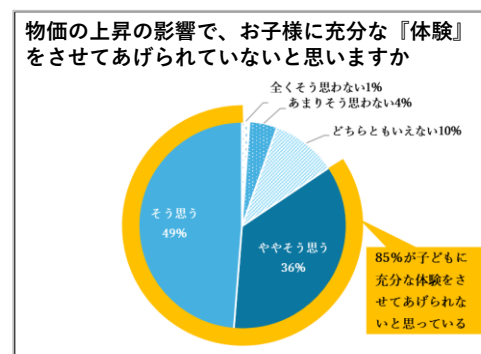


⑤子どもへの影響

⑥学習・体験機会の不足

59%が学習・発達への影響を懸念。85%が「十分な体験をさせてあげられていない」と回答。「家族で旅行」（410件）・「習い事」（291件）が諦められている。

※アンケート調査で、物価高騰により子育て世帯が深刻な困窮に直面している実態明らかになったことを受け、10月末に緊急食料支援を実施した。



⑥学習・体験機会の不足

4. ボランティア参加の促進

年間のべ **1694** 名

長年継続して支えて下さる方々の定着と、新規で加わる方の増加で、物価高騰の影響で支援回数も増した中、安定的に活動推進することが出来た

■継続的な関わりが支える支援活動

- ・毎週・定曜日の作業に長年参加して下さる方々に活動は支えられている。
- ・参加者それぞれの「誰かの力になりたい」という思いが、継続的な活動を支えている。

■企業・団体の参加が増加

- ・社会貢献活動の一環として、ボランティア休暇等を利用した支援活動への社員参加を促進する企業が増加。
- ・職場でのフードドライブへの協力も浸透。
- ・団体からのボランティア申し込みや問い合わせも増加、平日の作業を支えていただいている。

(1)「ナツボラ」 夏休み、高校生のボランティア 11日間延べ203名参加

■3年目の「ナツボラ」

- ・今夏も「こども支援プロジェクト」の準備・発送作業への参加を夏休みの高校生に呼びかける「ナツボラ（夏休みボランティア）」を企画。
- ・初日は山梨クインビーズ・、クリーンファイターズ山梨の選手やコーチ、県知事もボランティアに参加。
- ・期間を通じて想いの込められた食品の箱が仕上がった。

【参加者の声（ナツボラ）】

- ・たった一つの箱で救える人がいるのだと実感できた
- ・子供たちに貢献できることがとてもやりがいを感じるなと思いました
- ・ご飯がしっかりと食べれない子供達のためにやれることをやりたいと思ったから

(2)「フードバンク サンタWeek」 冬のこども支援発送作業に121名

■「サンタになりませんか」と企業に呼びかけ

- ・約900世帯に5日間かけて発送作業を行う冬のフードバンクこども支援プロジェクトでは、社会貢献として企業から社員の参加を募る「フードバンク サンタWeek」を企画。
- ・多くの企業が応えていただき、平日の5日間にのべ121名（14企業・団体）の参加があった。



作業ボランティアの様子



ナツボラの様子



サンタWEEK

5. 組織運営強化

賃金体系の見直しなど待遇面の改善を図るとともに、意見を言いやすい環境を整え、職員が安心して業務に取り組み、それぞれの能力を十分に発揮できる職場づくりに努めた。

①職員の働きやすい環境整備を実施

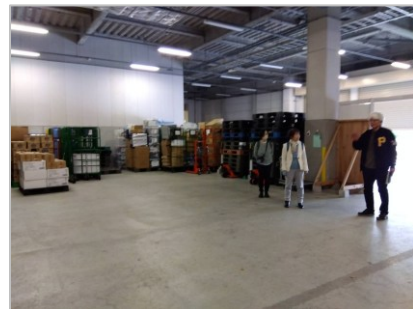
賃金体系を見直すとともに各種手当を整備した。
自己評価を基に相互の懇談と意見交換を実施した。

②人材育成

オンライン研修が中心だが、各種研修へ積極的に参加し、スキルアップや知識の深化を図った。
食品アクセス確保の補助金を活用し、他県の中核的フードバンクと多様な活動を実施しているフードバンクの視察を行い、手法などを学んだ。

2023年度 振り返りシート 担当部署: 名前:		振り返りシート	A・B・C
振り返りシート		振り返りシート	振り返りシート
働く意欲と取り組み	(1)	仕事や業務の進捗、実行などを進めている。	
	(2)	活動時間、作業時間などの定型的に動いている。	
	(3)	上司・先輩などからの業務指示・命令の内容を理解して従っている。	
	(4)	仕事に対する自身の目的意識や思いを持って、取り組んでいる。	
	(5)	外観等接客に前向きに取り組んでいる。外観等接客とは、客付者・ボランティア・児童・利用者などのこと	
責任感	(1)	一長一短を受けたことは途中で投げ出すことなく、最後までやり遂げている。	
	(2)	上司・先輩の上位者や同僚、外観等接客などの約定事項は厳格に守っている。	
	(3)	必要な手帳や手帳をなくことなく、決められた手順どおり仕事を進めている。	
	(4)	自分が受けた失敗やミスについて、他人に責任を押し付けず自分で受け止めている。	
	(5)	自分の課題を見直し、乗り越えている。仕事に力を入れて取り組んでいる。	

職員に実施している振り返りシート



中核的フードバンクの視察

6. 中核的フードバンクとしての活動推進

県内でフードバンク活動を行う15団体と連携し、団体への活動支援や基盤強化のサポートを通じて、県内各地域で生活に困窮する方が食品を受け取れる体制を整えた。

①「つながるスマイルプロジェクト」による

県内15か所での食品配布（年間7回）

15団体と連携することで、食品を必要とする方が、お住まいの地域で受け取れる体制を実現。
年間延べ912世帯へ食品を手渡しする支援ができた。



団体へ貸与している冷凍ストッカー

②県内フードバンク団体への活動支援

a.各団体へ役務費と交通費の補助

団体の経済的負担を軽減し、支援活動を継続して実施できるように、当法人までの食品引き取り・配布世帯ごとの仕分け・当日の配布等への役務費と交通費（自動車燃料代）を支給した。

b.備品貸与や消耗品の提供

冷凍ストッカーをはじめとした備品の貸与や消耗品の提供を行った。



県内フードバンク団体の活動の様子

③県内の地域フードバンクの運営ノウハウ支援

助成金の情報提供や運営などにかかわる相談に応じた。

7. 緊急災害支援対応

- ①災害時に備え、備蓄品の強化を図った。
- ②本年は災害への申請要請がなかった。

災害時に備え、食料・日用品を迅速に配送できるように、備蓄の強化など体制整備を進めた。

引き続き、全国フードバンク推進協議会と連携し、災害時に全国のフードバンクとのネットワークに参加できるよう備える。



災害に備え備蓄している保存水